

龍西だより



令和5年度 学校だより
第10号
令和5年6月8日
熊本市立龍田西小学校
校長 堀下 欣也

6月は「いじめ根絶月間」～校長講話より～

6月6日（火）の講話集会で、全校児童に以下のような話をしました。（長文ですが、ご一読ください）

今日は、龍田西小学校からいじめをなくすために、少しでもヒントになればいいなと思う話をします。みなさんは、「ピンクシャツデー」という日があるのを知っていますか？今日は、このピンクシャツデーの話をする。

カナダの中学校と高校が一緒になっている学校で実際にあったお話です。

2007年、カナダの中学生の男の子が、ある日ピンク色のシャツを着て学校に登校しました。その学校は、服が自由で好きな服を着ていい学校でした。男の子がピンク色のシャツを着てきたことで、周りの友達からからかわれたり、たたかれたりするなどのいじめにあい、がまんできずにその子は登校したのに家に帰ってしまいました。

その出来事を聞いた上級生（高校生）の2人が、「いじめがある学校は嫌だ」「何か行動をしよう」と思います。考えた2人は、たくさんのピンク色のシャツを買いに行きました。

そして、インターネットの掲示板やメール、電話を使ってクラスメート達に「ピンク色のシャツを着ていた中学生がいじめにあったんだ。明日は、みんなで一緒に学校でピンク色のシャツを着よう」と呼びかけたのです。次の日の朝、校門でみんなにシャツを配るために、二人は自分たちで買ったたくさんのピンク色のシャツをビニール袋に入れて登校しました。

二人が学校の門でシャツを配ろうとしたところ、次々と登校してくる友達の多くがピンク色のシャツを着て登校してきたのです。シャツが用意できなかった生徒たちは、リボンやハンカチなど、ピンク色の小物を持って登校してきました。二人の思いは、一夜にして広まっていたのです。二人が呼びかけた人数以上の生徒たちがピンクシャツやピンク色の小物を身に付けて登校したことで、その日は学校中がピンクに染まりました。いじめられた男の子は、その様子を見て、安心した表情を浮かべていたそうです。それ以来、その学校でいじめはなくなったそうです。

このカナダの学校の出来事が世界中に広がり、2月の最後の水曜日は、「ピンクシャツデー」として、いじめをなくしたい人たちがピンク色のシャツを着て「いじめ反対」のメッセージを送っています。

【 この話をわかりやすくまとめた紙芝居の動画を、子どもたちに見せました 】

みなさんは、この話を聞いてどう思いましたか？

この話で校長先生が思ったことは、いじめをなくすために大切なことの 하나가、いじめに気づいた周りの人たちが、どのような行動をするか、ということです。

もしも、龍田西小学校でいじめられている友達を見たら、みなさんどうしますか？

自分もいじめられるのが怖いから、見て見ぬふりをしますか？

先生やおうちの人に伝えますか？

いじめているひとに、直接「ダメだよ」と言いますか？

いじめは、いじめる人が一番よくないです。しかし、いじめに気づいた周りの人たちがどう行動するかも、とても重要です。このピンクシャツデーの話は、この周りの人たちの行動がいじめをなくしていくことを教えてくれます。

龍田西小学校でいじめが0になることが一番いいですが、もしも困っている友達を見かけたら、勇気を出して行動できる人になってください。

タブレットやパソコンで「ピンクシャツデー」と検索すると、実際にカナダの学校でピンクシャツを配ったトラヴィスさんという人を写真で見ることができます。興味がある人は調べてみてください。

これで、校長先生の話が終わります。